

漢字遊びの原理

手足を使えば、手足は必ず発達します。手足を使わないでいては、手足は決して発達しません。頭もそれと同じことで、頭を使えば、頭の働きは必ず良くなりますが、頭を使わないでいては、頭を良くすることは絶対にできない道理です。

ただ、足の弱い者が歩きたがらないように、頭の弱い者は、頭を使いたがりませんので、頭を良くすることがむずかしいのです。頭の弱い人は、頭を使う仕事を極力回避しようとするから、どうしても、喜んで頭を使うように仕向ける工夫が必要です。

“漢字遊び”は、どんなに頭の弱い者にも、喜んで頭を使うように考えられ、仕組まれたものです。だから、どんなに頭の弱い子供でも、必ず、喜んで“漢字遊びという学習”に熱中します。そして、この遊びを毎日怠らずに続けて実践しているならば、弱い頭も必ず働きの良い頭になって行きます。

“漢字遊び”の原理は、このように簡単なものですが、効果には驚くほど素晴らしいものがあります。ただ、注意しなければならないことは、足の弱い者は、少し歩き過ぎただけで足を痛め、二度と歩く意欲を失ってしまうことがあるように、頭の弱い者は頭を痛めやすいので、欲を出し過ぎて“漢字遊び”をやり過ぎないことが肝要です。

ところが、そのことがわかっていても、早く良くしてやりたいという欲に負けて、やり過ぎて失敗することが多いのは、実に残念なことで、くれぐれも控え目にする心がけが大切です。

それと同時に、もう一つ心がけて頂きたいことは、初めは熱心で忠実にやってくれるのですが“三日坊主”とは言わないまでも、日ごとに熱意の薄れていくことが多いということです。

『石の上にも三年』という諺の通り、三年はぜひ辛抱してほしいと思います。